
Fragmentary Passage **断章・銀河英雄伝説**

オウニンポヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fragmentary Passage 断章・銀河英雄伝説

【Nコード】

N3167W

【作者名】

オウニンポヤ

【あらすじ】

気付いた時、その男は銀河英雄伝説の「並行世界」に生きていた。原作と微妙に異なる展開に悩みつつも戦い、そして高みへ・・・。

（作者より）

原作に登場した人物の全てが作中に登場するわけではありません。原作と名前・参加陣営が異なる人物がいます。

作中は「並行世界」の為、「原作世界」と歴史の流れに若干の相違

があります。

各話は必ずしも時系列順に並んでいるわけではありません。

この小説は、らいとすたっフルール2004にしたがって作成されています。

1st fragment 終わる回想と始まる物語

20 Jun U.C. 863

バーラト星系、ハイネセン市にて

彼らを見送ってからもう10年近くになる。

友は出会い、そして別れてゆくもの。

だが私は彼らを忘れはしまい。

友情は永遠のものだ。

部屋の右手のドアより、小さくノックする音が聞こえた。入力する手を休め、「どうぞ」と返事を返す。ドアが開き、そこから妻と曾孫娘が

「あなた、取材の方がお待ちですよ。」

「おじいちゃん、おきゃくさまー。」

と、私に声をかけてきた。画面の時計表示に目をやる。約束の時間を過ぎていた。つい書くのに夢中になっていたようだ。

「ああ。わかった、すぐいくよ。」

その返事に不満なのか、曾孫娘が唇を尖らせる。

「もー、おじいちゃんったらいつもそればかりー。」

「おじいちゃんは書いている時は夢中なのよ。」

と、妻が曾孫娘を相手しつつ客間へと戻ってゆく。閉じてゆくドアの隙間から彼女らを見送りつつ、何処かで見たようなやりとりだな、とふと笑いが込み上げてきた。

デイスブレイへと再び顔を向け、書きかけの文章を締め括るべくキーを打つ。

若き日々を共に過ごした、あのような友たちはもうできない。もう二度と。

この本を良き友、789年ブラザーズの皆と最愛の妻、ヴィータへ贈る。

終わったか……。思い出の全てを記し終えたことへの深い満足と、少しの寂しさが胸を満たす。ふう、とため息をつき椅子の背凭れに身を預けると、書き物机の左手に置いていた写真立てと、ミニチュアの艦が私の眼に映った。

写真立てには私と友の皆とが写ったものを入れている。そこに写る皆は若く、中將か大将の階級章を着けている。これは確か、私が第1機動集団の司令官になった時に写したものだっただか。

写真立ての左右には<ウプウアウト>、<トリグラフ>、<ペルーン>、<プロテシオス>、<ブリューナク>、などなど、友たちが旗を掲げた宇宙戦艦のミニチュアが並ぶ。

その正面には私が座乗した艦、<ウブスナ>、<マツヤ>、<ペンテシレイア>、<ロンギヌス>が置かれている。

それらを見る私の脳裏に数多の戦い、エル・ファシル、イゼルロイン、ヴィーレンシユタイン、そして最後の戦い、アムリツツアの

記憶が浮かんでは消えてゆく。

「この世界」に来てから90年余、幾度も戦場に立ち、仲間と、妻と、多くの人々と出会い、そして別れてきた。思えば遠くまで来たものだ。

ディスプレイへ目を戻すと、彼女らが私を呼びに来てから10分近くが過ぎていると時計表示が教えてくれた。いかな、もう行かなければ。私は文末に

T e o G r o n h o l m

と署名すると文章を保存、それが終了したのを確認すると客間へと向かうべく椅子より立ち上がった。

1st fragment 終わる回想と始まる物語（後書き）

1st fragment 終わる回想と始まる物語

テーマは「暗示」と「キーワード」です。

2nd fragment 少年は彼と出会い、彼は少年と
出会う

2nd fragment 少年は彼と出会い、彼は少年と出会う（前書き）

考えていることを文章で表現するのはやっぱり難しい。

2nd fragment 少年は彼と出会い、彼は少年と出会う

2 Apr U.C. 779

バールト星系、ハイネセン市にて

section A

「ラルフ・マイザーは彼と出会う」

今日はふたつ、大きなことがあった。

ひとつめはこのハイネセンの新しい家に、兄さんと姉さんといっしょにひっこしをしたこと。

もうひとつは新しい友だちができたこと。

この家のとなりの家に住んでいる男の子で、テオという9歳の同い年の子だ。

とっても詩的な名前で、ぼくはとても気に入った。

ぼくのかみは金色で、テオは銀色。

ぼくの目は青だけど、テオのは赤。

ぜんぜん正反対なところも気に入った。

テオはオーデインを出てから初めてできた友だから、もつと
つとなかよくなりたいと思う。

ふたりはだれにも教えてはダメって言うてたけど、テオには本当の
ぼくを知っておいてほしい。

だから教えた。

ぼくの本当の名前を。

Section・B

「テオ・グロンホルムは少年と出会う」

隣の家はザーニアルさんが引っ越してから空き家になっていたが、
今日、新しい住人がやってきた。

引っ越してきたのはジル・キルヒヤーさんという長身赤毛の男の
人だ。24歳、軍人で階級は少尉のこと。

同居人も一緒にやって来た。アンネッテとラルフのマイザー姉弟、
キルヒヤーさんの従姉弟で被保護者だという。ふたりとも金髪碧眼
で、アンネッテさんは僕より5歳年上、ラルフ君は同じ年だそうだ。

昼過ぎ、3人で転居の挨拶に来た。言葉の端々に帝国風の発音が
有る。帝国よりの亡命者かな、と思ったが、それなりの事情という
ものがあるだろうから尋ねることはしなかった。

客間に通された彼らに僕は自己紹介をしたが、それに対するラルフ君の台詞には少し気になる部分があった。

詩的でいい名だ。

初対面の人物の名を詩的云々と評する言動とその容姿、これらが当てはまる原作の登場人物が脳裏に浮かんだ。しかし、その人物とは年齢が違うし、なにより亡命してはいないので他人の空似として片付けた。その時は。

その後、僕はラルフ君と近くの公園へと出かけた。最初のうちは彼が「その人物」かが気になり、少しぎこちない接し方になっていくと思う。けれどもふたりで遊ぶうちに緊張も解れてゆき、家に帰る頃にはすっかり仲良くなっていた。

日も暮れかけ家へと帰る道すがら、君にだけは教えてあげる、と彼は話しかけてきた。真剣な眼差しかった。

曰く――

自分たちは亡命者で、亡命した理由は寵妃として宮中へと連れ去られようとしていた姉を救うためである。

彼の話聞き入る僕の胸中に、嫌な予感というものが湧き上がる。彼の話は続く。

宮中からの車が来る前日、年長の友人の力を借り、姉を連れてオランダを脱出した。その後、フェザンを経て同盟へと渡り、同盟の市民権とハイネセンでの住居を得た。

これはあれか？原作1巻で赤毛の人が僅かに思い浮かべたことが

現実になったと、そういうわけか？

黒いものが身中进行してゆく。

手助けしてくれた友人とはキルヒヤーさんのことで、本当の名前はジークフリード・キルヒアイスという。

姉の名前はアンネローゼ・フォン・ミューゼル、そして僕の名前は――

いやな予感というものは当たるものだ。

――ラインハルト・フォン・ミューゼル

2nd fragment 少年は彼と出会い、彼は少年と出会う（後書き）

2nd fragment 少年は彼と出会い、彼は少年と出会う

テーマは「主要人物との出会い」です。

今回の登場人物は両者とも9歳です。

section・Aでは「9歳の子供の日記」と「同盟標準語に慣れていないたどどしい感じの文」を意識しました。

section・Bでは「テオの中の人」がそれなりの年齢であるため、「9歳という子供の文章とは思えない文章」になるようにしました。

3rd fragment とある若者の休日前夜

3rd fragment とある若者の休日前夜（前書き）

奇数話は未来編、偶数話は過去編で進めてゆきます。

3rd fragment とある若者の休日前夜

3 NOV U.C. 863

アルビオン星系、スカボロー市にて

我が家のドアを開け、ワンルームの内へと足を進める。照明を点けて窓際のテーブル上に置いているPCの電源を入れる。

H.O.S

Hyper Operation System Ver 4.05

起動画面が浮かんだ後、読み込みがなされる。一旦、テーブルより離れてクローゼットの前へと向かう。部屋着へと着替えて戻り、椅子に座った時にはディスプレイはデスクトップ画面となっていた。マウスを操作しデスクトップに置いてある「ルグール」、普段使っている検索サイトへのショートカットをクリック、トップページを開く。

「Legoolle」

キーを打ち「白銀の翼」と入力する。「白銀の翼」は先週公開されたばかりの新作三次元映画で、第5次アムリツァ会戦における艦隊司令官たち、789年ブラザーズの活躍を描いた群像劇である。

徹底的にリアリティを追及した映像、クライマックスの会戦シーンは他に類を見ない迫力に満ちている、などなどと評判は上々で、観客の動員数もかなりのものになっているという。

かくいう自分も明日。映画館へ足を運ぶつもりだ。

Enterキーを押すと、一瞬の間を置いて画面が検索結果のものへと切り替わる。「白銀の翼」のオフィシャル・サイトへのリンクは並べられた項目の列、その最上段にあった。そこへとカーソルを動かしクリック、ページを開く。

「白銀の翼」オフィシャル・サイトへようこそ

題名に倣ってか、オフィシャル・サイトは白を基調としていた。その構成はキャストの紹介や各種インタビュー、あとはインフォメーションへのバナーがいくつかある程度と、思いのほかにシンプルなものであった。

インフォメーションより映画館情報へと進み、スカボロー市で上映している映画館を探す。ずらりと並ぶリストの中、アルビオン星系の箇所にくテアトル・スカボローの名を見つけそれをクリック、案内のページへと移る。ふむ、朝は10時30分開演で10ディナールね、なるほど。

求めていた情報は見つかったが、床に就くにはまだ早い。どうしようか、と考える脳裏にひとつ考えが浮かんだ。第5次アムリッツア会戦や艦隊司令官たちについて、いささかでも予備知識があればより深く映画を楽しめるのではないか。ならば、と登録しているシヨートカットより「ユニペディア」、こちらも調べものに常用しているオンライン百科事典を開く。

Welcome to Unipedia!

トップページが開くと、第5次アマリツア会戦、と入力しEnterキーを打つ。ページが読み込まれ、百科事典の当該記事へと表示が切り替わる。

「第5次アマリツア会戦」

第5次アマリツア会戦とは、帝国領内「アマリツア星系」において、宇宙暦800年（新帝国暦3年）7月26日に「自由惑星同盟軍」と「ミュッケンベルガー朝銀河帝国軍」との間で行われた会戦である。

現在までのところ、本会戦は同盟・帝国間で戦われた最後の大規模会戦となっている。

1．概要

会戦前の情勢、および会戦が与えた影響については「継続戦争」（注1）の項目を参照。

本会戦は「統合作戦本部」が「イゼルローン回廊」帝国側出口の至近に位置するアマリツア星系周辺における制宙権の獲得、および同星系に観測・前進基地群を再建（注2）することを企図したことを発端とする。

これをうけ「宇宙艦隊総司令部」は「カエサル・アウグストウス作戦」を立案、「第1機動集団」へ同星系への出撃を命令した。

宇宙暦800年（新帝国暦3年）7月26日、第1機動集団は同星系へ到着、布陣するほぼ同数の「銀河帝国軍宇宙艦隊」と交戦に入った。

双方共に少なからぬ損害を被る激戦の結果、第1機動集団は帝国軍を同星系より排除することに成功し、制宙権の確保という作戦の第1目標を達成した。

会戦後、第1機動集団は建設部隊を護衛するため同星系に留まり、8月1日に到着した「第2（要塞駐留）艦隊」と交代し「イゼルローン要塞」へ帰還した。

8月18日、観測・前進基地群が完成、これをもって「カエサル・アウグストウス作戦」は完了した。

2・参加兵力（注3）

2・1 自由惑星同盟軍

「第1機動集団」 「テオ・グロンホルム」大将ノ・ロンギヌスノ

「機動集団司令部直轄集団」 グロンホルム大将直卒

「集団直轄第11作戦集団」 「マルコ・マリネッティ」少将ノ

<ロスタム>

「集団直轄第12作戦集団」 「ジョン・ビューフォート」少将ノ
<グラウコス>

「第3艦隊」 「ダステイ・アッテンボロー」大将ノ・トリグラフノ

「第4艦隊」 「ジョサイア・ローリングス」中将ノ・ペンテシレイアノ

「第5艦隊」 「セシル・ディオ」中将ノ・ペルーンノ

「第6艦隊」 「イライジャ・ヴァン・ビューレン」中将ノ＜プロテシラオス＞

「第7艦隊」 「アルフォンス・フォン・ヴィトゲンシュタイン」中将ノ＜ゲイボルグ＞

「第8艦隊」 「デビッド・ザーニアル」中将ノ＜ブリューナク＞

総兵力 約100,000隻/約15,000,000人

*「第2（要塞駐留）艦隊」 「ラルフ・カールセン」中将ノ＜デイオメデス＞

「イゼルローン要塞」にて予備として待機

「宇宙艦隊司令部直轄集団」 「ラルフ・マイザー」大将ノ＜ウブアアウト＞

「バーラト星系」にて総予備として待機

2 / 2 ミュッケンベルガー朝銀河帝国軍

「銀河帝国軍宇宙艦隊」 「エルネスト・メックリンガー」司令長官・上級大将ノ＜クヴァシル＞

「メックリンガー艦隊」 メックリンガー司令長官直卒

「ビッテンフェルト艦隊」 「フリッツ・ヨーゼフ・ビッテンフェルト」大将ノ＜ケーニヒス・ティーゲル＞

「アイゼナツハ艦隊」 「エルンスト・フォン・アイゼナツハ」大将ノ＜ヴィーザル＞

「ファールンハイト艦隊」 「アーダルベルト・フォン・ファールンハイト」大将ノ＜アースグリム＞

「ルッツ艦隊」 「コルネリアス・ルッツ」大将ノ＜スキールニル＞

「ミユラー艦隊」 「ナイトハルト・ミユラー」大将ノ＜リユーベック＞

「シュタインメッツ艦隊」「カール・ロベルト・シュタインメツツ」大将／＜フォンケル＞
「ワーレン艦隊」「アウグスト・ザムエル・ワーレン」大将／＜サラマンドル＞

総兵力 約100,000隻／約15,000,000人

3・注

注1 帝国側の情勢等については「グリルパルツァー戦役」を参照。

注2 宇宙歴792年、「第1次アムリツァ会戦」の勝利により確保されたアムリツァ星系に観測・前進 基地群が建造された。同基地群は797年、アムリツァ星系の放棄に伴い破壊された。詳細は「ガダルカナル作戦」、「第4次アムリツァ会戦」を参照。

注3 各司令官の階級は両軍共に会戦当時のものである。

4・関連項目

「継続戦争」／「グリルパルツァー戦役」

「カエサル・アウグストウス作戦」

「789年ブラザーズ」

ひととおりの目を通すと、次は作品中に登場するであろう人物について知ろうか、と関連項目より789年ブラザーズを選択し、そのページへと進む。

「789年ブラザーズ」

「ラルフ・マイザー」元帥（最終階級・以下同様）を中心とした「自由惑星同盟軍士官学校」卒業生グループの通称。

789年とは、「ジャン・ロベール・ラップ」元帥以外のメンバーが士官学校を宇宙歴789年に卒業したことにちなむ。（ラップ元帥は787年卒業）

「ラルフ・マイザー」、「ジャン・ロベール・ラップ」、「テオ・グロンホルム」、「ダステイ・アッテンボロー」の4人は別に「エル・ファシル・ボーイズ」の通称で呼ばれることもある。

メンバー全員が生前、または没後に元帥号の授与を受けている。とくに789年卒業生は「730年マフィア」、730年卒業生の7人を上回る8人と最も多く元帥号授与者を輩出した学年となっている。

863年現在、存命しているのは「テオ・グロンホルム」元帥のみである。

・メンバー（先任順）

「ラルフ・マイザー」	(14 Mar U.C. 770 - 26 Jul U.C. 801)
「ジャン・ロベール・ラップ」	(25 Sep U.C. 767 ? 30 Nov U.C. 823)
「テオ・グロンホルム」	(16 Jun U.C. 769 - 「ダステイ・アッテンボロー」
(23 Nov U.C. 769 ? 9 Sep U.C. 852)	
「ジョサイア・ローリングス」	(9 Apr U.C. 768 ? 4 Apr U.C. 845)
「デビッド・ザーニアル」	(30 May U.C. 769 ? 26 Jul U.C. 800)
「アルフォンス・フォン・ヴィトゲンシュタイン」	(28 Feb

b U . C . 7 7 0 ? 1 D e c U . C . 8 1 0)
「セシル・デイオ」 (2 2 A u g U . C . 7 6 9 ? 2 6
J u l U . C . 8 0 0)
「イライジャ・ヴァン・ビューレン」 (1 D e c U . C . 7
6 8 ? 6 M a r U . C . 8 2 2)

* 経歴等はそれぞれの項目を参照。

メンバーの名前を眺めていると、ふと数日前に見た芸能ニュースを思い出した。それはハイネセンでの先行上映の際、劇中で主人公として描かれているグロンホルム提督本人が挨拶をされた、というものだった。

にわかに提督への興味が湧き、カーソルを提督の名の上へと動かしクリックする。

「テオ・グロンホルム」

宇宙歴769年6月6日、「ハイネセン市」に生まれる。軍人（退役）、最終階級は元帥。

「自由惑星同盟軍士官学校」卒業後、最初の大功を挙げて以降、「789年ブラザーズ」かつ「エル・ファシル・ボーイズ」の一員として急速にその頭角を現す。

攻防のバランスが取れ、指揮官・参謀いずれもこなすオールラウンダーと評される。

1 . 軍歴

785年、士官学校入学

789年、士官学校卒業／少尉

「エル・ファシル星系警備本部」付、「エル・ファシル脱
出行」に参加。

791年、「第8艦隊」司令部付／大尉

792年、「宇宙艦隊総司令部」作戦課員／少佐、「第5次イゼル
ローン攻防戦」に参加。

793年、「第501長距離搜索群」指揮官／中佐、「ロードラン
ナー」作戦に参加。

794年、「第203作戦集団」主席幕僚／大佐、「第6次イゼル
ローン攻防戦」に参加。

795年、「第112作戦集団」司令／准将、「第3次アムリッツ
ア会戦」に参加。

796年、「第11艦隊」参謀長／少将、「ボーデン会戦」、「ヴ
イーレンシュタイン会戦」に参加。

797年、「第4艦隊」司令官／中将、「第4次アムリッツア会戦
」に参加。

798年、「クーデター鎮圧」、「ドーリア会戦」に参加。

799年、「第1機動集団」司令官／大将

800年、「第5次アムリッツア会戦」に参加。

801年、「宇宙艦隊司令長官」／元帥

806年、「統合作戦本部長」

826年、退役

2・乗艦

<ウブスナ> 第501長距離搜索群旗艦／標準型戦艦

<マツヤ> 第112作戦集団旗艦／<ヒューベリオン>級戦艦

<ペンテシレイア> 第4艦隊旗艦／<アキレウス>級戦艦

<ロンギヌス> 第1機動集団旗艦、宇宙艦隊旗艦／<トリグラフ

>級戦艦

3・参考文献

「我等が征くは星の大海 テオ・グロンホルム自伝」

「戦争の回想 アッテンボロー提督回想録」

「銀河英雄群像」

ここまで読み進めたところで、ふあと思わず大きな欠伸がでた。先程よりどんどんと眠気が強くなり、頭がフラつくのを感じる。瞼も少し重くなってきた。

もう少しいろいろと見てみたい気もするが、それは明日の朝でもいいだろう。

スタートよりPCのシャットダウンを行う。操作を終えると椅子を離れ、ベッド脇のサイドテーブルに置いていた端末で部屋の照明を落とす。ディスプレイの光を頼りにしてベッドへと進み横たわる。そして眼と閉じるのとはほぼ同時にディスプレイが消え、部屋は闇となった。

3rd fragment とある若者の休日前夜（後書き）

3rd fragment とある若者の休日前夜

テーマは「ネットサーフィン」と「キーワードの解説」です。

4th fragment 古き世界よさようなら、新しき世界よ
こんにちは

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3167w/>

Fragmentary Passage 断章・銀河英雄伝説

2011年9月27日05時25分発行